

## 「風が気持ちいい」 彩湖でボート教室

戸田市の彩湖で6月24日、ボートとカヌーの教室が開かれた。好天に恵まれ、豊かな緑と広がる青空に、親子の参加者たちが「すばらしい」と声を上げた。

2020年東京五輪のボート競技会場は、東京湾海の森だが、会場決定前に多くのボートマンたちが「東京湾より彩湖を」と提唱した経緯があるだけに、改めて彩湖のすばらしさや可能性を感じさせた教室だった。

使用したボートはナックルフォア。4人で1本ずつ4本のオールをこいで、船尾に舵取りのコックスが乗る。用意した3艇のコックスが豪華だった。日大OBで県ボート協会の和田卓理事長(73)、八潮高、中央大OBで世界選手権日本代表の田立建太さん(34)、立教大OBで埼玉県代表成年女子チーム監督の野中誠司さん(35)が指導した。

片道約2き、ぐるっと回ってコックスの話を聞きながら約1時間の船旅。親子12人が参加したが、戸田第2小学校

6年生の高橋賢生さん(11)は「風が気持ちよかった」。父の会社員智章さん(48)は「みんなの息が合つと、ボートがグリーンと進み気持ちよかった」と話した。

和田さんは今も「ボート会場は彩湖が最適。せめて各国の五輪選手の事前合宿の候補地として考えてほしい」と語り、彩湖をボート競技のメッカとする夢は消えていない。

艇をトラックで運ぶのを手伝ったのがボート強豪の南陵高ボート部員たち40人。マネジャーの2年生鈴木悠姫さん(17)は「彩湖は風も波も静かですごく気持ちいいコース。市民の方が楽しんでよかった」と話した。

カヌーは親子30人が参加し、戸田ドルフィンカヌー・スポーツ少年団メンバーが指導した。指導した富田好一さん(67)は「彩湖は自然を楽しめる場所だ」と話した。



青空と緑の風を感じ水を切って進むボート。コックスは野中誠司さん。6月24日、戸田市の彩湖